令和4（2022）年度 第2回四万十町立図書館協議会 会議録（要旨）

日 時：令和4年9月2日（金） 10時00分～12時00分

場 所：四万十町 農村環境改善センター2階 第1会議室

出席委員：竹村君子、刈谷明子、武内文治、小橋匠

欠席委員：金子仁

事務局：山脇教育長、味元課長（生涯学習課）、大河原館長、田辺副館長、富永主査（生涯学習課）、
長木（図書館）、須藤（図書館）、川上（図書館）、谷脇（図書館）

文化的施設整備推進室：大元政策監、西尾次長、松下主任

■会議録（要旨）

報告（1） 令和4（2022）年度の事業の進歩について

- ・「四万十町文化的施設サービス計画」に基づく事業

【質疑応答】

（竹村会長）

高知新聞に牧野富太郎が植物採取で訪れた場所を探索しようとなりましたが、事業実施報告の「みんなで一緒に見よう」はこのイベントの延長なのですか。

（大河原館長）

色々な部署で牧野富太郎のイベントが行われており、つながっているかはわかりませんが、この高知県地域観光課主催については、より地元のガイドに向けての取り組みになっています。ガイドをされる方向けですので、公開視聴については一旦、導入篇のみとなっております。

（竹村会長）

移動図書館ですが、こういう車が日常的に目に入ってくるようになると楽しくなりますね。
楽しみです。

（刈谷委員）

8月6日の読み聞かせボランティア交流会での感想になりますが、十和のグループでイベントの案内を共有し、十和からは1名の方が参加しました。参加した方から、「アドバイザーの話を聞いて、すごく勉強になった」や「普段活動している人以外で読み聞かせをしている人と話すことができてよかった」など感想を共有しました。

（武内委員）

田野々小学校で読み聞かせ活動をしており、読み聞かせボランティア交流会に参加しました。

初めての事でしたが、とても楽しかったです。色んな所で皆さんが頑張っている事も知ることができ、また技術的にも大変いい刺激を受けました。

情報システムの導入準備ですが、四万十町は広いので、システムを取り入れて親しんでいくのは大切なことだと思います。ですが、機械を使える人と使えない人がいて配慮も必要になってきます。広い四万十町ですので情報技術を活用するというのが必要で期待する面もあります。見る人だけでなく、作成する職員も含めて使えるようなものを期待しています。

しかし、システムは非常に高いですし、建物ができるとラーニングコストが非常に大切だと思いますので、安く、良心的な業者を探していただけたらと思います。

(小橋委員)

移動図書館は、本を積んで、移動販売車のようにしての貸し借りですか。

以前、津野町に勤務の際に、町立図書館が子どもだけではなく、職員向けの本も持ってきてもらい大変、助かっていたので、移動図書館で広がっていったらいいなと思います。

(大河原館長)

移動図書館車は両側の扉が開くようになっており、そこに本棚があります。そこから本を選びます。500～600冊が載ります。

(刈谷委員)

イベントの集客が大変だと思いますが、新しいことをする中で、利用者に広がるように届く動きというのはありますか。

(大河原館長)

人材育成センターとの共催で行う未来大学や昭和小学校の地域学校協働本部などは両方からの呼びかけで集客を周知していますので、プラスの効果になると思います。オンライン公開視聴はお試しで行っており、広報は図書館の来館者や興味ある方に周知しました。図書館に来てというだけでなく、こんな事ができますよということを意識してやっていきたいと考えています。

報告(2) 「子ども読書活動推進計画」から「生涯読書活動推進計画」へ

【質疑応答】

(竹村会長)

策定委員は12月が第1回ですか。

(大河原館長)

公募委員の募集をかけてからですので、12月あたりになります。

(竹村会長)

自動的に図書館協議会の委員が入っているのですね。

(大河原館長)

子ども読書推進計画策定委員の際に刈谷委員が委員となっていましたので、継続して図書館協議会の委員として参加をお願いしたいと考えています。

(竹村会長)

「子ども読書活動推進計画」と「生涯読書活動推進計画」が重なっているということですか。

(大河原館長)

「子ども読書活動推進計画」での名称は一旦廃止となりまして、「生涯読書活動推進計画」に「子ども読書活動推進計画」が含まれるという事になります。

報告(3) 文化的施設について

【質疑応答】

(竹村会長)

事業費についてですが、これから先、完成までの2年半にさらに費用の高騰どれくらい増えていくのか、予想値というものは分かりますか。

(大元政策監)

総事業費がどれくらい増えるのかは、現在、設計途中の段階ですので、10月15日に設計が出来上がった際に中身をしっかりとみて精査していきます。現時点でどのくらいかは見込めませんが、総事業費の情報を設計者と話しながら詰めていく必要があります。予算を上げて、また増やすという事は財源の事を考えるとできませんので、財源を含めて考え、最終予算を予想して予算を上げていくということになります。

(刈谷委員)

いろんな事情で工期が伸びていますが、開館に向けてこれまでやってきたことがあるので計画どおりに進めていき、工事の中止がないようにしていただきたい。

(大元政策監)

平成28年度から議論がはじまり、検討委員を設置し、その経過の5年ぐらいが左右されます。実施設計ができた段階で資材の高騰が要因で設計をみだすと時間とお金もかかってきます。これをやり直しとなりますと様々な所に影響がありますので、待ったをかけるということは難しいです。この事業は基本設計が出来上がって、実施設計、工事の予算を認めていただいております。今回、予算が増額となりましたが、実施設計で物が増えたのではなく、設計者側も精査して行っております。やむを得ない事情で上がっている部分については議会で納得できるようにしていきたい

と思います。

(小橋委員)

費用についてですが、いつの段階で予算が決まってできるのか、完成まで追加で金額があがるのか、いつの段階だと計画した金額でできるのか知りたい。

(大元政策監)

通常の工事では基本設計、実施設計ができ工事発注という形や工事によっては、基本設計で工事費を確保して、概算で予算を決める場合もあります。今回は実施設計ができるまで工事費用を予算揭示していません。通常ですと1年ぐらいで工事が終わりますので、単価が変わっても必要な納品で行います。今回の場合は1年を超える工期になりそうですので、単価改正などが行われるのを一定見込んでいます。

(竹村会長)

文化施設ができる事によって、四万十町の文化・伝統・人が集まるという活性化、そういう所にどう繋がっていくのかという事と金額以上の値打ちのある文化的な施設を活用される人が集まる施設になるのかという納得感がどうもたらされるかという事だと思います。

楽しくなる事や活性化することの実感が町民に伝わってくればいいなと思いますね。

この建物の駐車場はどうなっていますか。

(西尾次長)

線路側のスロープの上に8台、合計駐車場は20台です。

(竹村会長)

建物以外のものは予算に入っていないのですか。

(大元政策監)

庭や駐車場の整備など、この図にあるものは入っております。障がい者用の駐車スペースを設けておりまして、屋根も含めて入っております。

(竹村会長)

ウッドデッキは屋根がありますか。

(西尾次長)

ウッドデッキには屋根はありません。

(竹村委員)

ヒノキの組子の壁ですが、場所によっては暗く感じる所も見たこともありますが、そういうのはどうなっていますか。

(西尾次長)

この組子は構造材です。飾りや細工としか使用されなかったものとして、構造材を使うことで四万十ヒノキのPRができると思います。

(大元政策監)

四万十ヒノキをたくさん使うのではなく、組子を取り入れて付加価値をつけていくことも大事なのではという提案もいただいていることです。

(竹村会長)

組子をたくさん使用した場所を見たこともあるのですが、そういうのと違うのですか。

(西尾次長)

飾りではなく構造材の一部として使えるようにということです。

(竹村会長)

この建物ができた時には小中学生が建物のガイド役として、四万十産ヒノキはこういう所で使われているという案内ができるといいですね。

床はどうなっていますか。

(西尾次長)

床はタイルカーペットになっております。

アプローチ棟あたりはフローリングになっております。

(竹村会長)

白い壁は漆喰ですか。

(西尾次長)

アプローチ棟の白い壁は糊漆喰です。

(大河原館長)

アートギャラリーとなっている部分の壁は美術館スペースですので、クロスが貼られる感じでは。

(刈谷委員)

アートギャラリーの扉はどうなっていますか。

(大河原館長)

可動式の扉でパーティションのような感じで使う際は閉めることもでき、使用していないときは広く開けることができます。

(竹村会長)

太陽光発電の案はなかったのですか。

(西尾次長)

太陽光発電については検証してみまして、立地的に日照時間が少なく、付けることでの効果が得られないのでその分を他に活用できるようにと考えております。また、太陽光発電につきましては、今後すぐれた技術のもの、蓄電池など、ができる際には後から設置できるような形にはなっております。

(小橋委員)

アプローチ棟の利用の仕方について、車で利用が多いと思いますので、天候に左右されない駐車場の利用を考えると屋根が必要なのではないかとということと、周辺 45 台の駐車場についてお聞きしたい。

(大河原館長)

アプローチ棟は町にひらかれたという部分で交流を促す場所としての位置づけにもなります。入口に入ってすぐに休憩や観光パンフレットや町の最新の情報を共有する場所、さらに奥には新聞や雑誌、新しい本など、また 2 階が図書館部分になりますので、2 階への導入といった場所になります。

1 階の多目的室を簡単なイベントや人が集まって交流する場所として設けております。

(西尾次長)

敷地周辺の駐車場は建物の横の旧都築邸の前の駐車場と旧都築邸の横を町民の方が共同で使える駐車場として調整しております。それを合わせて 45 台ほどになります。

雨よけはコストの面もありまして、障がい者用の乗り降りにはついては屋根を設置しております。

(竹村会長)

障がい者用の出入りする場所は常時開いていますか。

(西尾次長)

メイン棟の入り口、アプローチ棟の入り口、旧都築邸側から入る入口がありまして、常時利用できます。

(竹村会長)

予算関係につきましては、町民が満足できるようなサービスへとよろしく願います。

(山脇教育長)

文化的施設の建設コストが高騰しておりますが、しっかり説明しながら、財政計画を含め、住民の方に恩恵がいきわたる様なサービスとして、今後の議会での手順も説明させていただきますし、また実施設計が完了しだい協議会でも報告もさせていただきますので、ひきつづき熱心に注目、協議

をお願いします。

—閉会—